

2009年11月25日

# 2009年度上期決算 投資家説明会

---

株式会社三井住友フィナンシャルグループ  
取締役社長 北山 禎介

# 本日のアジェンダ

## 1. 2009年度の経営方針と上期業績

1-1. 足許の事業環境における SMFGのアプローチ	P.3
1-2. 2009年度上期業績の概要 及び戦略施策の進捗	4
1-3. 2009年度上期決算サマリー	5
1-4. トップライン収益	
(1) 業務粗利益	6
(2) 資金利益: 貸出金残高	7
(3) 資金利益: 預貸金利鞘	8
1-5. 部門別実績	9
1-6. 経費	10
1-7. 与信関係費用	11
1-8. リスク管理態勢の高度化	12
1-9. 株式・債券	13
1-10. 連結寄与	14
1-11. 資本	15

## 2. 2009年度下期経営方針と成長事業領域の強化

2-1. 2009年度業績予想	P.17
2-2. 日興コーディアル証券を通じた成長機会	18
2-3. 法人向けソリューション／投資銀行ビジネス	19
2-4. 個人向け金融コンサルティング	20
2-5. 支払・決済・コンシューマーファイナンス	
(1) 決済関連ビジネス及び安定的な預金基盤	21
(2) クレジットカード事業	22
(3) コンシューマーファイナンス事業	23
2-6. 海外戦略	
(1) 提携を通じた成長機会の捕捉	24
(2) 資金調達業務の強化	25

## 3. グローバルプレーヤーに相応しい 財務体質の実現

3-1. 09年度上期の資本政策	27
3-2. 足許の事業環境と 自己資本比率規制強化の動き	28

## 終わりに

(参考) SMFGのグループストラクチャー	30
-----------------------	----

# 1. 2009年度の経営方針と上期業績

---

# 1-1. 足許の事業環境におけるSMFGのアプローチ

## 当社グループの基本戦略

「中核となる商業銀行業務」の強みを活かし、  
「最高の信頼を得られ世界に通じる金融グループ」を目指す

## 2009年度 経営方針

「Follow the Basics」のキーワードの下、商業銀行の事業基盤に基づく  
基本原則に則った業務運営の徹底により、守りを固めつつ、着実な成長を目指す

### 「クレジットコスト」「リスクアセット」「経費」の3つのコントロール

- 1 クレジットコスト／リスクアセットのコントロール
- 2 経費のコントロール

### 成長事業領域の強化

- 3 個人向け金融コンサルティング  
／支払・決済・コンシューマーファイナンス
- 4 法人向けソリューションビジネス／投資銀行・信託業務
- 5 グローバルマーケットにおける特定分野

### グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現

- 6 資本の質・量の拡充

# 1-2. 2009年度上期業績の概要及び戦略施策の進捗

09年度のSMFG連結中間純利益は、SMBCの業績が好調に推移したこと等から、09年5月予想比+335億円の1,235億円となりました。

また、本邦金融機関最大の普通株増資を実施、資本の質・量の両面における拡充を進めたほか、10月1日付で日興コーディアル証券をSMBCの100%子会社とし、成長事業領域の強化を進めました。

## 「クレジットコスト」「リスクアセット」「経費」のコントロール

### SMBC単体

#### 業務純益\*

5月予想比 +276億円

#### 業務粗利益

5月予想比 +193億円

- ✓ 好調な国債等債券損益
- ✓ 国際業務部門の資金利益の増加 等

#### 経費

5月予想比 △83億円  
(経費率は47.5%に)

- ✓ 業務推進経費、システム・施設投資の抑制等

#### クレジットコスト

5月予想比△731億円

- ✓ 取引先の状況に応じたきめ細かな対応等

### SMFG連結

#### 中間純利益

5月予想比 +335億円

## グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現

- 発行価額総額8,610億円の普通株増資を実施
  - 優先出資証券を発行(08/2月以降累計約1.6兆円)
    - ✓ 約10年前発行の0.8兆円のリファイナンスを完了
- SMFG連結Tier I比率は9.55%に

## 成長事業領域の強化

- オリックス・クレジットの連結子会社化 09/7月
- バンク・セントラル・アジア(インドネシア)との業務提携 09/7月
- ベトナムエグジムバンクとの技術支援契約締結 09/8月
- 平準払保険等の国内全支店店頭での取扱開始 09/8月
- SMBCが日興コーディアル証券を100%子会社化、総合証券会社として業務開始 09/10月

# 1-3. 2009年度上期決算サマリー

09年5月予想比、業務粗利益が増益となったことに加え、経費を削減したことから、SMBC単体の業務純益は+276億円の増益となりました。また、与信関係費用が09年5月予想比△731億円の改善となったことなどから、SMBC単体中間純利益は09年5月予想比+426億円の増益となりました。

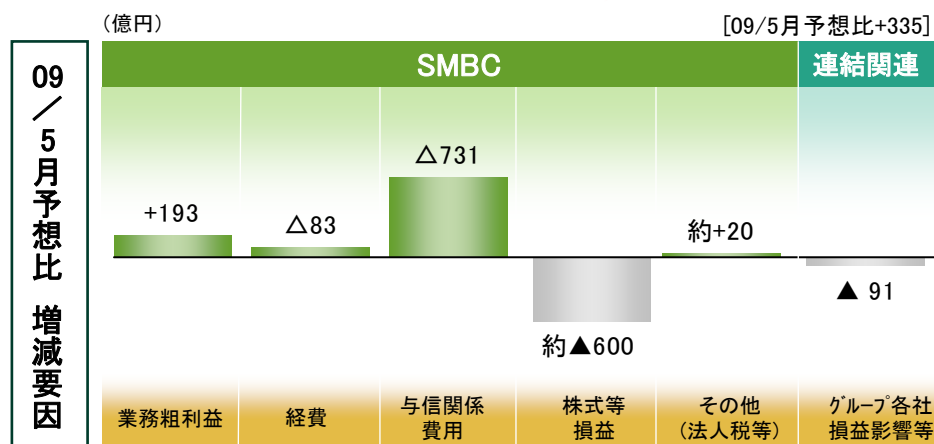
その結果、SMFG連結中間純利益は、09年5月予想比+335億円の増益となりました。なお、前年同期比でも、SMFG連結中間純利益は+403億円の増益を確保しています。

		(億円)	09年度 上期	前年 同期比	09/5月 予想比
SMBC 単体	業務粗利益		7,193	▲158	+193
	経費		▲3,417	△149	△83
	業務純益*1		3,776	▲9	+276
	株式等損益		▲368	▲196	
	与信関係費用*2		▲1,569	△672	△731
	その他臨時損益		▲367	▲216	
	経常利益		1,471	+250	+371
	中間純利益		1,126	+322	+426
SMFG 連結	経常利益		2,222	+313	+222
	中間純利益		1,235	+403	+335

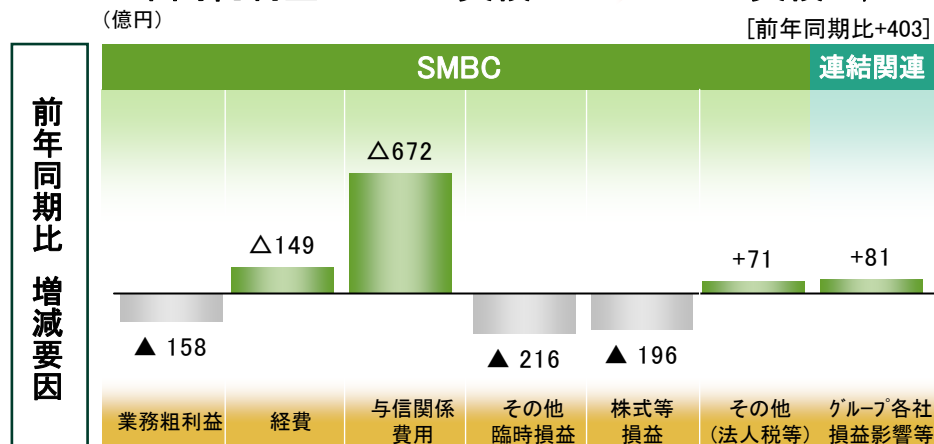
\*1 一般貸倒引当金繰入前

\*2 特別損益分を含む

## SMFG中間純利益：09/5月予想 900 ▶ 09/上実績 1,235



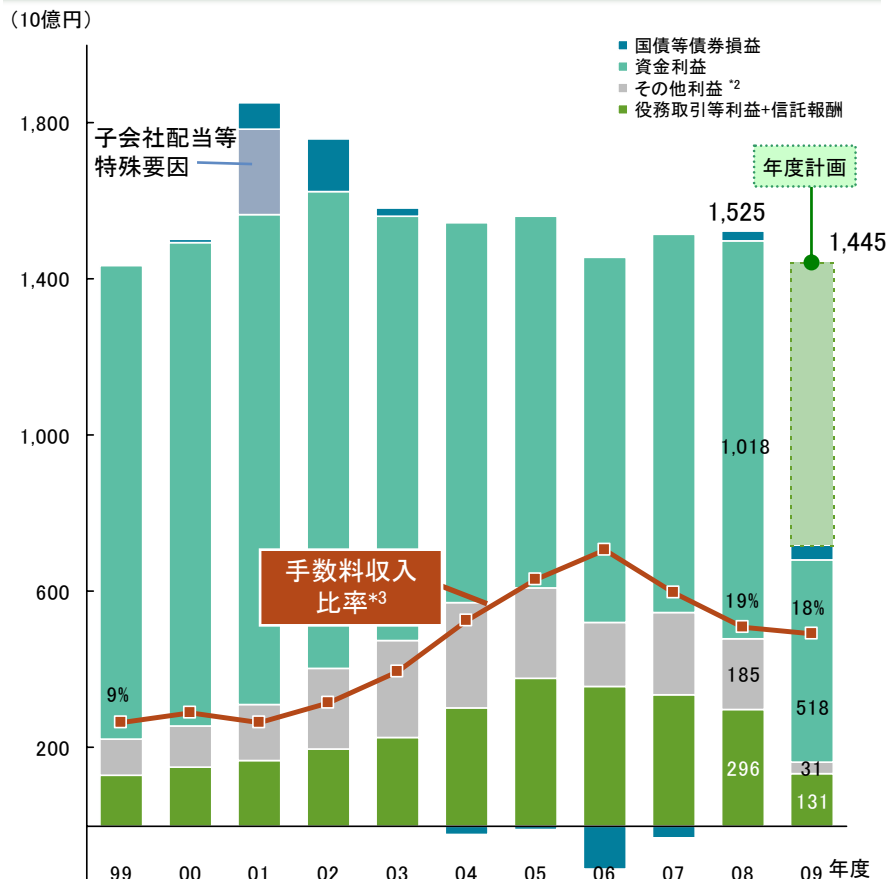
## SMFG中間純利益：08/上実績：832 ▶ 09/上実績：1,235



# 1-4. トップライン収益 (1) 業務粗利益

国債等債券損益は改善いたしました。海外でのローン関連手数料の減少や、貿易量減少に伴う外為関連収益の減少等により、SMBC単体の業務粗利益は前年同期比では▲158億円の減益となりました。

## 業務粗利益\*1



## 前年同期比増減益要因

	09年度 上期	前年 同期比
<b>業務粗利益</b>	<b>7,193</b>	<b>▲158</b>
<b>資金利益</b>	<b>5,178</b>	<b>+49</b>
国内業務部門 資金利益	4,594	▲6
国際業務部門 資金利益	584	+55
うち 金利スワップ収支	20	+102
<b>役務取引等利益 + 信託報酬</b>	<b>1,312</b>	<b>▲171</b>
うち 国際業務部門 貸金等関連手数料	175	▲85
うち 証券関連手数料*4	94	▲31
<b>特定取引利益 + その他業務利益</b>	<b>703</b>	<b>▲36</b>
うち 国債等債券損益	389	+434
うち 金融派生商品収益	▲140	▲153
うち 外国為替売買益*5	261	▲199

\*1 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算

\*2 その他利益 = 特定取引利益 + その他業務利益 - 国債等債券損益

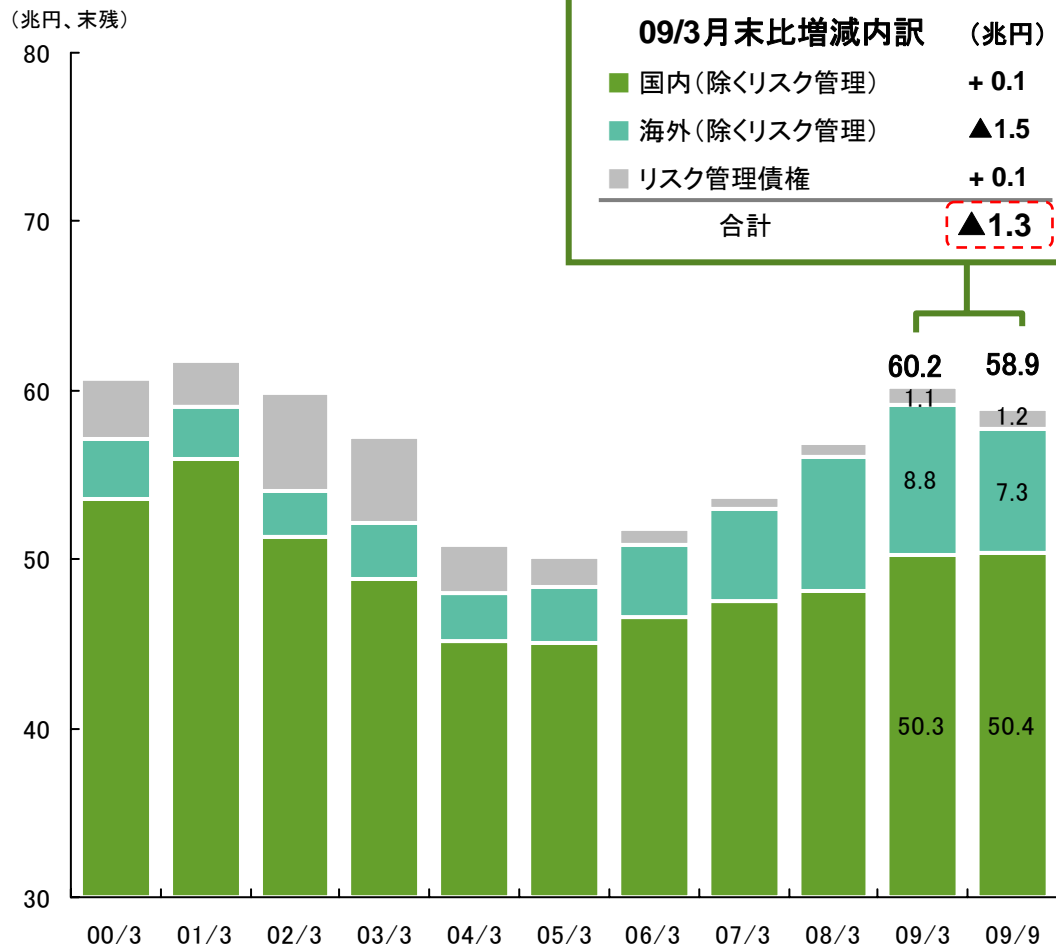
\*3 手数料収入比率 = (役務取引等利益 + 信託報酬) / 業務粗利益

\*4 証券仲介関連手数料を含む \*5 入り繰り調整後

# 1-4. トップライン収益 (2) 資金利益: 貸出金残高

海外貸出金残高は、08年度下期より慎重なアセット運営を継続していることから、09/3月末対比で減少しました。国内貸出金残高も、国庫向け貸出を除くベースでは09/3月末対比減少しました。08年度下期の直接金融市場の機能低下に伴う資金需要が沈静化した上、景気低迷を背景に資金需要が限定的な状況です。

## 貸出金残高の推移\*1



\*1 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算

## 国内業務部門別貸出金残高(管理ベース)

(兆円、末残)	09/9月末	09/3月末比
個人部門	15.2	+ 0.2 <sup>*2</sup>
法人部門 <sup>*3</sup>	19.3	▲1.1
企業金融部門	12.2	▲0.0

\*2 住宅ローン証券化分の加算調整後(09年度上期実績約400億円)

\*3 国庫向け貸出を除く

## 海外地域別貸出金残高\*4(管理ベース)

(兆円、末残)	09/9月末	09/3月末比
海外合計	8.7	▲ 1.3
米州	2.6	▲ 0.8
欧州	3.4	▲ 0.3
アジア	2.7	▲ 0.2

\*4 欧州三井住友銀行・三井住友銀行(中国)を含む



# 1-4. トップライン収益 (3) 資金利益: 預貸金利鞘

国内預貸金利鞘の悪化は、主に昨年10月・12月の政策金利引下げに伴うものです。

## 預貸金利鞘(財務ベース)

(兆円、%)

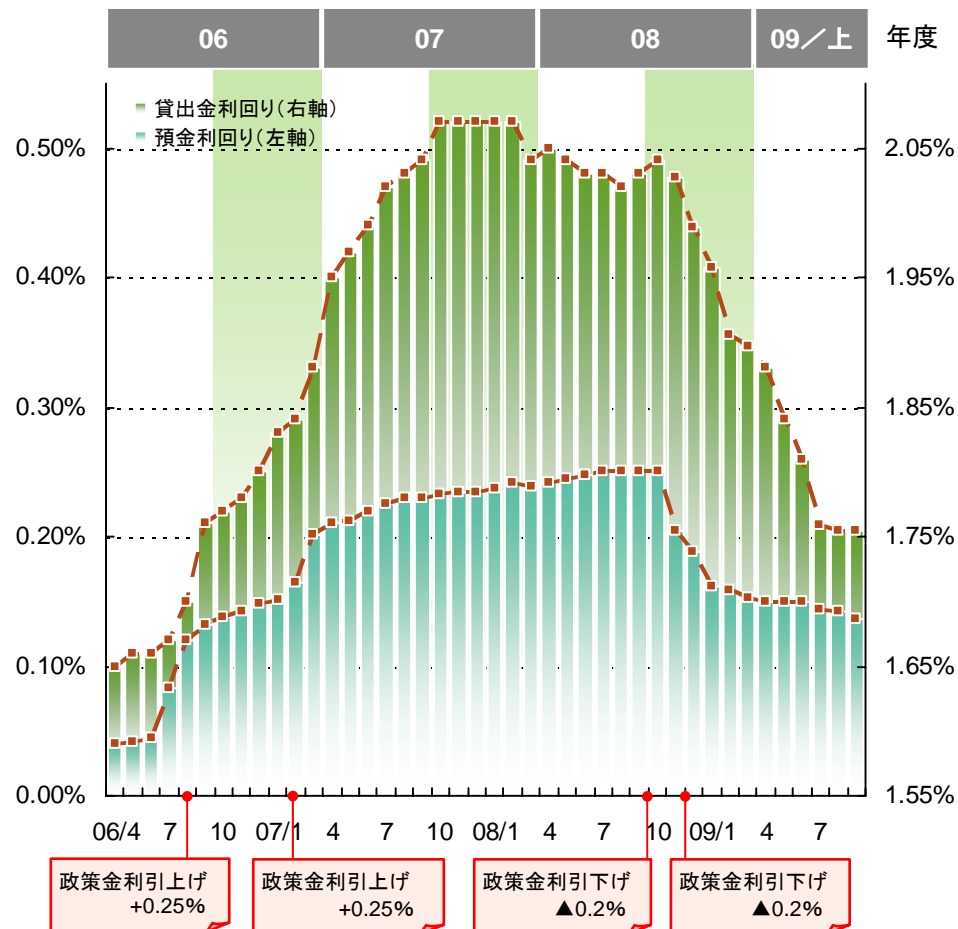
【国内業務部門】	09年度上期		前年同期比	
	平残	利回り	平残	利回り
貸出金* (a)	48.2	1.77	+2.2	▲0.24
預金等 (b)	67.2	0.15	+7.1	▲0.11
預貸金利鞘 (a) - (b)		1.62		▲0.13

【国際業務部門】	09年度上期		前年同期比	
	平残	利回り	平残	利回り
貸出金 (a)	9.5	2.21	▲0.6	▲1.80
預金等 (b)	10.3	0.54	+0.3	▲1.77
預貸金利鞘 (a) - (b)		1.67		▲0.03

\* 除く金融機関向け

## 国内預貸金の利回り推移(管理ベース)



- 短期プライムレート: 1.375% → 1.625% (+0.250%, 2006/8/21 ~) → 1.875% (+0.250%, 2007/3/26 ~) → 1.675% (▲0.200%, 2008/11/17 ~) → 1.475% (▲0.200%, 2009/1/13 ~)
- 普通預金金利: 0.001% → 0.100% (+0.099%, 2006/7/18 ~) → 0.200% (+0.100%, 2007/2/26 ~) → 0.120% (▲0.080%, 2008/11/4 ~) → 0.040% (▲0.080%, 2008/12/22 ~)
- 定期預金金利(1年物、店頭): 0.150% → 0.300% (+0.150%, 2006/7/18 ~) → 0.400% (+0.100%, 2007/2/26 ~) → 0.300% (▲0.100%, 2008/11/12 ~) → 0.250% (▲0.050%, 2009/5/1 ~) → 0.200% (▲0.030%, 2009/7/13 ~) → 0.170% (▲0.030%, 2009/9/7 ~) → 0.140% (▲0.030%, 2009/11/9 ~)

(SMBC単体)

## 1-5. 部門別実績

マーケティング部門の粗利益は、金利・為替影響を除くベースで略前年同期並の水準を確保しました。  
また、市場営業部門の増益、一段と抑制的な経費運営により、政策金利引下げや円高に伴う減益影響を吸収し、  
全体の業務純益は前年同期並みの水準を確保しました。

		(億円)	08年度 上期	09年度 上期	前年 同期比*1
個人部門	粗利益		2,156	1,925	▲59
	経費		▲1,453	▲1,444	△10
	業務純益		703	481	▲49
法人部門	粗利益		2,811	2,314	▲336
	経費		▲1,112	▲1,092	△14
	業務純益		1,699	1,222	▲322
企業金融部門	粗利益		943	972	+194
	経費		▲157	▲166	▲1
	業務純益		786	806	+193
国際部門	粗利益		899	842	+185
	経費		▲346	▲273	△20
	業務純益		553	569	+205
マーケティング部門	粗利益		6,809	6,053	▲16
	経費		▲3,068	▲2,975	△43
	業務純益		3,741	3,078	+27
市場営業部門	粗利益		898	1,670	+783
	経費		▲91	▲82	△5
	業務純益		807	1,588	+788
本社管理	粗利益		▲356	▲530	▲925
	経費		▲407	▲360	△101
	業務純益		▲763	▲890	▲824
合計	粗利益		7,351	7,193	▲158
	経費		▲3,566	▲3,417	△149
	業務純益		3,785	3,776	▲9

### プロダクト別粗利益(管理ベース)\*2

		(億円)
ウチ 国内貸出金収益		2,611 (+ 27)
国内円預金収益		1,043 (▲ 5)
国際部門金利関連収益		504 (+168)
金利収益		4,419 (+187)
ウチ 投資信託		167 (+ 5)
個人年金		95 (▲ 2)
個人向けコンサルティング関連収益		274 (▲ 1)
ウチ シンジケーション関連		228 (+ 49)
ストラクチャードファイナンス*3		174 (▲ 29)
不動産ファイナンス*3		151 (+ 70)
投資銀行ビジネス関連収益*3		659 (+ 68)
ウチ デリバティブ販売		89 (▲142)
振込・EB		480 (▲ 7)
外為収益		198 (▲ 39)
国際部門非金利収益		338 (+ 17)
非金利収益		1,634 (▲203)
マーケティング部門粗利益		6,053 (▲ 16)

金利・為替影響等: ▲740億円

(表面ベース)  
前年  
同期比:  
▲756億円

### 期中平均貸出残高・スプレッド(管理ベース)

	平均残高		スプレッド	
	09年度 上期	前年 同期比	09年度 上期	前年 同期比
(兆円、%)				
国内貸出	51.1	+2.6	1.04	▲0.04
ウチ 個人部門	15.1	+0.4	1.49	▲0.04
ウチ 法人部門	19.5	▲1.0	1.19	▲0.02
ウチ 企業金融部門	12.1	+1.8	0.65	+0.09

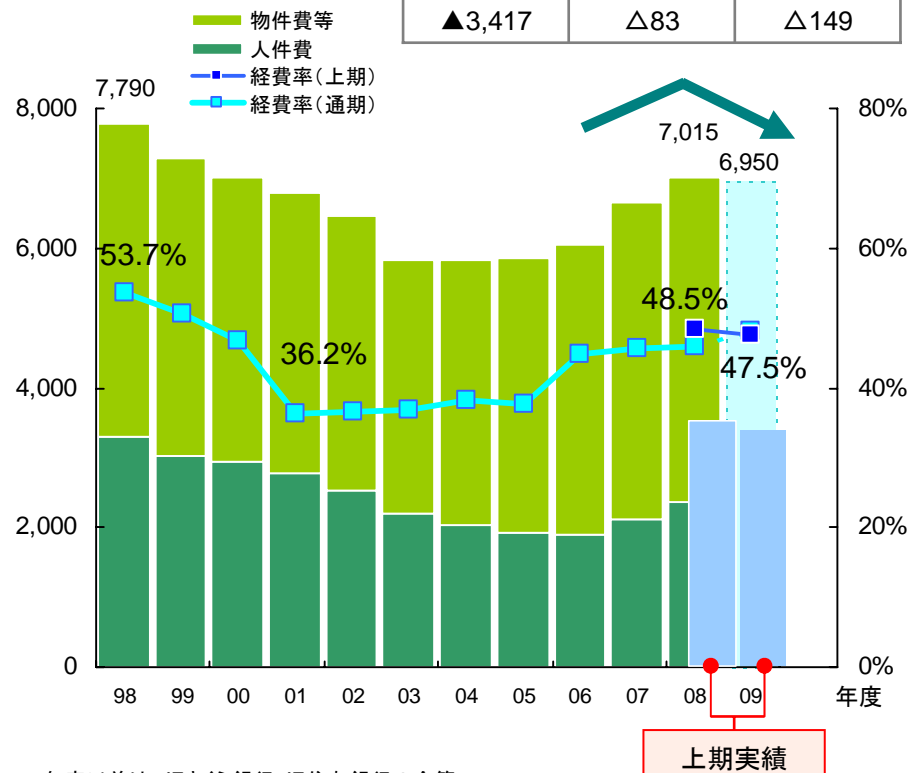
# 1-6. 経費

業務推進経費の削減やシステム・施設投資の抑制・内容見直しにより、SMBC単体経費（除く臨時処理分）は09年5月予想比△83億円、前年同期比△149億円となる▲3,417億円に削減いたしました。引続き経費率（SMBC単体）40%台を堅持してまいります。

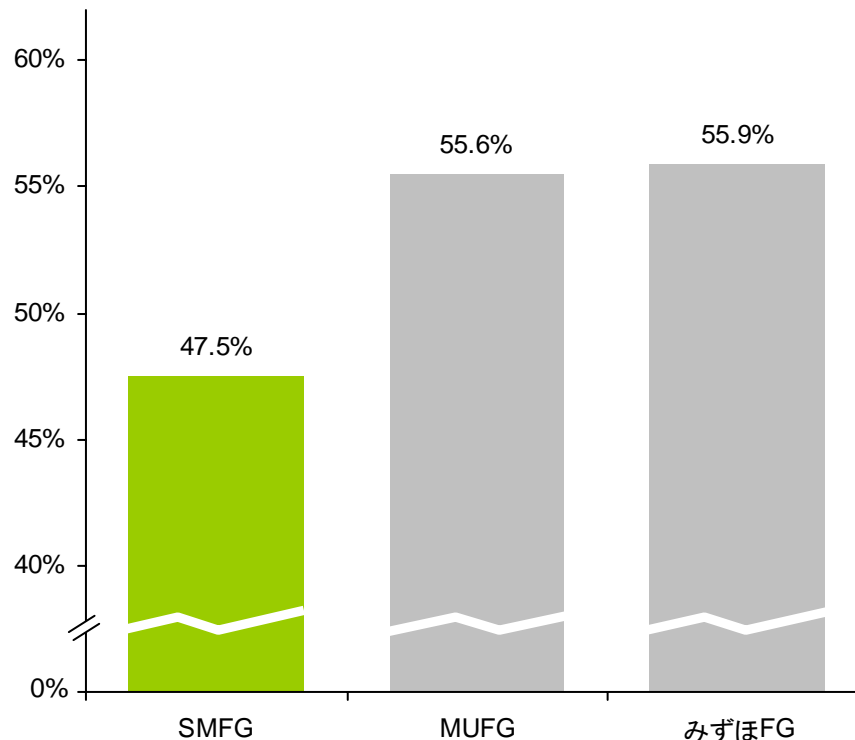
## 経費の推移\*1

(億円)

09年度 上期実績	5月予想比	前年同期比
▲3,417	△83	△149



## 経費率 (09年度上期、他行比較\*2)



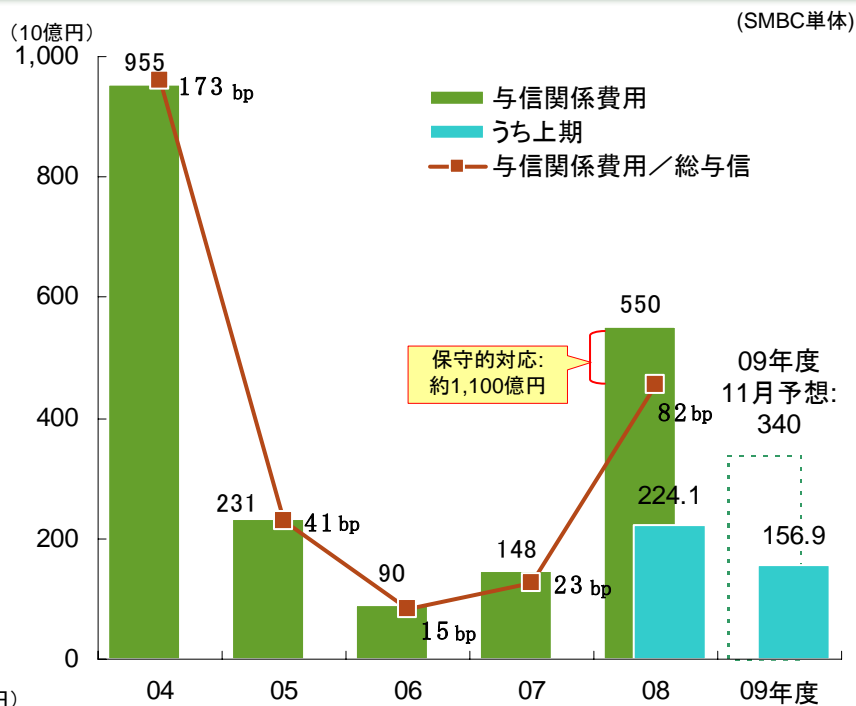
\*1 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算

\*2 各社公表資料に基づく。三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)は三井住友銀行単体、三菱UFJフィナンシャルグループ(MUFG)は三菱東京UFJ銀行単体、みずほフィナンシャルグループ(みずほFG)はみずほ銀行及びみずほコーポレート銀行の2行合算。

# 1-7. 与信関係費用

信用保証協会による緊急保証等をはじめとする政府の景気対策の効果に加え、取引先に対するきめ細かい対応や、海外マーケットの状況改善等による、劣化コスト抑制を主因に、09年度上期の与信関係費用（SMBC単体）は、前年同期比では△672億円、09年5月予想比では約△730億円の減少となりました。

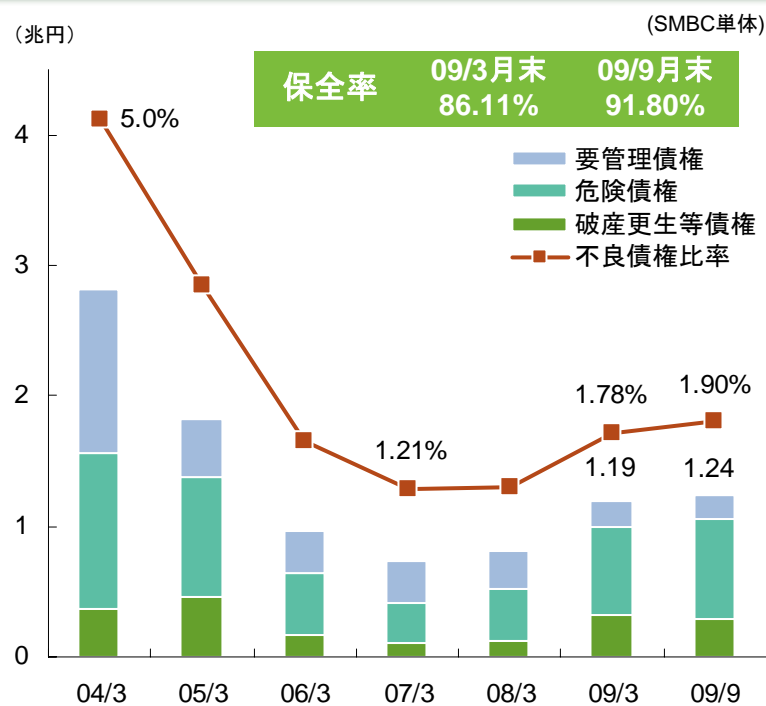
## 与信関係費用



項目	04	05	06	07	08	09年度
与信関係費用 (SMFG連結)	1,197	302	145	249	768	268.5
連単差	242	71	55	101	218	111.6
					78.0	

## 参考

## 不良債権残高



項目	04/3	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	09/9
その他要注意先残高	4.3	2.4	2.2	2.4	2.6	3.7	3.6
総与信末残	56	55	57	61	65	67	65

\* 除く要管理先債権

# 1-8. リスク管理態勢の高度化

リスクが多様化、複雑化していく中、網羅的なリスク管理態勢の構築とバーゼルII対応を軸としたリスク計量化を推進しています。



# 1-9. 株式・債券

09年9月末時点における試算では、株式ポートフォリオの損益分岐点は、日経平均株価8,000円程度です。債券ポートフォリオの運営では、内外の金利動向を的確に捉えたオペレーションを実施いたしました。

## その他有価証券(時価のあるもの)内訳(09/9月末)

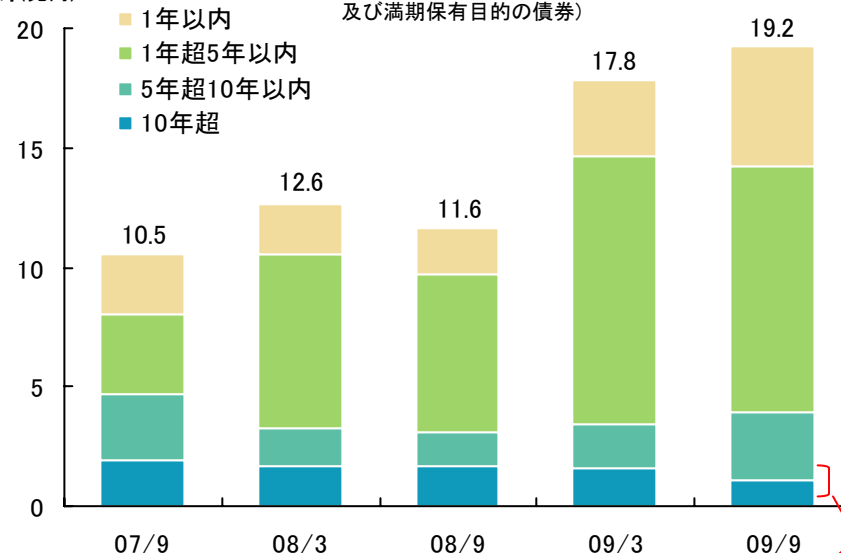
(SMFG連結)

	(億円)	取得原価	評価差額	09/3月末比
<b>株式</b>		<b>19,753</b>	<b>5,278</b>	<b>5,208</b>
うち SMBC単体		19,773	4,960	5,125
<b>債券</b>		<b>144,868</b>	<b>633</b>	<b>661</b>
うち SMBC単体		134,356	556	568
うち 国債		133,025	542	553
<b>その他</b>		<b>37,740</b>	<b>135</b>	<b>509</b>
うち SMBC単体		34,976	121	370
<b>合計</b>		<b>202,361</b>	<b>6,046</b>	<b>6,378</b>
うち SMBC単体		189,105	5,637	6,064

## 円債ポートフォリオ

残高(兆円)

(その他有価証券のうち満期があるもの (SMBC単体) 及び満期保有目的の債券)



うち15年変動利付国債: 約1.8兆円

平均デュレーション(年)	07/9	08/3	08/9	09/3	09/9
平均デュレーション	2.7	2.3	1.7	1.8	1.7
評価損益(億円)	▲1,577	▲1,295	▲565	▲12	556

08/9月より、15年変動利付国債は合理的な見積り価額を用いて評価

# 1-10. 連結寄与

09年度上期の中間純利益の連単差は、前年同期比+81億円増加し、109億円となりました。

(億円)	SMFG連結	SMBC単体	連単差
(連結)業務粗利益	10,660	7,193	3,467
資金利益	6,832	5,178	1,654
信託報酬	5	5	0
役務取引等利益	2,595	1,307	1,288
特定取引利益	1,406	1,075	331
その他業務利益	▲178	▲372	194
営業経費	▲5,330	▲3,417	▲1,913
与信関係費用*	▲2,685	▲1,569	▲1,116
株式等損益	▲89	▲368	279
持分法による投資損益	▲200	-	▲200
経常利益	2,222	1,471	751
特別損益	78	▲20	98
中間純利益	1,235	1,126	109
(連結)業務純益	4,004	3,776	228

## 連単差内訳(概数)

		(億円)	09年度上期	前年同期比
①	三井住友ファイナンス&リース		310	+20
	関西アーバン銀行		290	▲20
	みなと銀行		220	▲10
②	三井住友カード		720	▲0
	SMBC信用保証		170	+10
③	SMBCフレンド証券		220	+120
④	三井住友カード		▲650	△30
	SMBCフレンド証券		▲220	▲10
	三井住友ファイナンス&リース		▲210	△10
	関西アーバン銀行		▲180	△10
⑤	関西アーバン銀行		▲240	▲120
	欧州三井住友銀行		▲180	▲110
	三井住友ファイナンス&リース		▲140	▲30
⑥	プロミス株減損の戻入		290	+290
⑦	セディナ		▲200	▲200
	大和証券SMBC		40	+210

前年同期比 +81億円



# 1-11. 資本

普通株増資や優先出資証券の再調達、連結中間純利益計上等により、資本の質・量を拡充いたしました。

(億円)	09/3末 (a)	09/9末 (速報値) (b)	(b) - (a)
<b>Tier I</b>	<b>43,351</b>	<b>52,952</b>	<b>+9,601</b>
ウチ 資本金・資本剰余金	14,781	23,435	+8,654
[ウチ優先株]	[3,102]	[3,102]	-
ウチ 利益剰余金	12,240	12,968	+728
ウチ 海外特別目的会社の 発行する優先出資証券	17,633	17,305	▲328
ウチ その他有価証券の評価差損	▲146	-	+146
ウチ 為替換算調整勘定	▲1,291	▲861	+429
ウチ 適格引当金-EL(マイナスの 場合)の50%相当額	▲176	▲471	▲295
ウチ 証券化取引に伴い 増加した自己資本相当額	▲421	▲401	+20
<b>Tier II</b>	<b>24,210</b>	<b>27,655</b>	<b>+3,445</b>
その他有価証券含み益の 45%相当額	-	3,076	+3,076
土地の再評価差額の 45%相当額	372	372	▲0
一般貸倒引当金	804	795	▲9
永久劣後債務	7,626	6,762	▲864
期限付劣後債務	15,408	16,650	+1,242
控除項目	▲7,082	▲7,792	▲710
BIS自己資本	60,478	72,815	+12,337
リスクアセット	527,265	554,233	+26,968
自己資本比率 <sup>*1</sup>	11.47%	13.13%	+1.66%
Tier I 比率	8.22%	9.55%	+1.33%
<b>繰延税金資産純額</b>	<b>8,304</b>	<b>6,720</b>	<b>▲1,584</b>

## Tier I

① 普通株増資	+ 8,610億円
② 連結中間純利益 配当	+ 1,235億円 ▲ 510億円
③ 優先出資証券発行による再調達 優先出資証券償還	+ 3,430億円 ▲3,400億円

繰延税金資産の対Tier I比率(SMFG連結):  
09/9月末: 12.7% (09/3月末比 △6.5%)

## Tier II

④ 株価上昇等による含み益増加	+ 3,076億円
⑤ 期限付劣後債務調達 期限付劣後債務償還等	+ 2,508億円 ▲1,268億円

## リスクアセット

(億円)	09/3末	09/9末 (速報値)	09/3末比
⑥ 信用リスクアセットの合計額	493,972	521,710	+27,738
マーケットリスク相当額	2,657	2,358	▲299
(参考)アウトライヤー比率 <sup>*2</sup>	8.6%	8.1%	▲0.5%
オペレーショナルリスク相当額	30,636	30,165	▲471
合計	527,265	554,233	+26,968

PD影響を中心に、信用リスクアセット増加



## **2. 2009年度下期経営方針と成長事業領域の強化**

---

## 2-1. 2009年度業績予想

SMBC単体の09年度通期の当期純利益は、与信関係費用が上期の実績を踏まえ09年5月予想比△400億円改善する見込みであること等から、09年5月予想比200億円の増益を見込んでいます。

一方、SMFG連結の当期純利益は、持分法適用関連会社セディナが業績予想を修正し、SMFG持分で09年5月予想比約▲180億円の減益としたことなどにより、09年5月予想通りの2,200億円を見込んでいます。

		08年度 実績 (a)	上期 実績	09年度	(b)-(a)
				11月予想 <09/5月予想> (b)	
		(億円)			
SMBC 単体	業務粗利益	15,249	7,193	14,450 <14,450>	▲799
	経費	▲7,015	▲3,417	▲6,950 <▲6,950>	△65
	経费率	46.0%	47.5%	48.1% <48.1%>	+ 2.1%
	業務純益*1	8,234	3,776	7,500 <7,500>	▲734
	与信関係費用*2	▲5,501	▲1,569	▲3,400 <▲3,800>	△2,101
	経常利益	361	1,471	3,300 <3,100>	+2,939
	当期純利益	▲3,011	1,126	2,000 <1,800>	+5,011
SMFG 連結	経常利益	453	2,222	4,900 <5,100>	+4,447
	当期純利益	▲3,735	1,235	2,200 <2,200>	+5,935

### 業績予想の前提

	09/5月 予想	09/11月 予想
名目GDP成長率	▲3.5%	
TIBOR3ヶ月物レート	0.65%	0.56%
FF金利(誘導水準)	0.00~0.25%	
為替(円/米ドル)	90	
参考 日経平均株価(円)	7,765*3	10,133*4

\*3 09/3月末 \*4 09/9月末

### 普通株配当

- 通期のSMFG連結業績予想に大きな変動がないことから、5月予想を据置き(一株当たり年間90円、うち45円を中間配当として支払)

## 2-2. 日興コーディアル証券を通じた成長機会

09年10月1日に、日興コーディアル証券をSMBCの100%子会社として当社グループに迎え入れました。

リテール部門では、預かり資産が堅調に推移しており、特に、10月1日からSMBCと日興コーディアル証券双方で取扱を開始した投資信託は好調な滑り出しとなっています。

ホールセール部門でも、債券・株式引受業務、債券トレーディング業務ともに、順調に実績をあげています。

### リテール分野

#### 強固なリテールプラットフォームの構築

- SMFGのリテールプラットフォームは、預かり資産65兆円、営業員約9,800人、全国約600拠点と飛躍的に拡大
- SMBC・日興コーディアル証券のノウハウ、商品・サービスを連携して投入し、お客さまの様々なニーズに対応

#### 具体的な取組み

- 共通取扱い投資信託の開発・販売
  - ▶ 本年10月に取扱開始の投資信託
    - 当初設定額(10月30日): 2,157億円
    - 債券ファンド: 業界全体で今年度最大の設定額を記録
- 共同セミナーの開催(本年10月)  
延べ2,200名のお客さまの来場
- お客さま紹介業務を相互に開始
- 証券仲介業務(予定)

「トータルコンサルティング」の完成形の早期実現へ

### ホールセール分野

#### 順調な実績

09/10月実績

株式・債券引受案件

50件以上\*

債券トレーディング業務  
における取引社数  
(成約ベース)

数百社

#### 今後の取組み

- 日興コーディアル証券にSMBCとの連携を推進する「SMBCデスク」を設置(10月1日設置済み)
- 株式や債券の発行や運用等のニーズの紹介
- SMBCにて日興コーディアル証券を委託元とする証券仲介業務(予定)
- 兼職組織の設置(検討中)

銀証融合のビジネスモデルを追求

\* 条件決定済の案件ベース

日興コーディアル証券と共に新たな「複合金融ビジネス」を創造

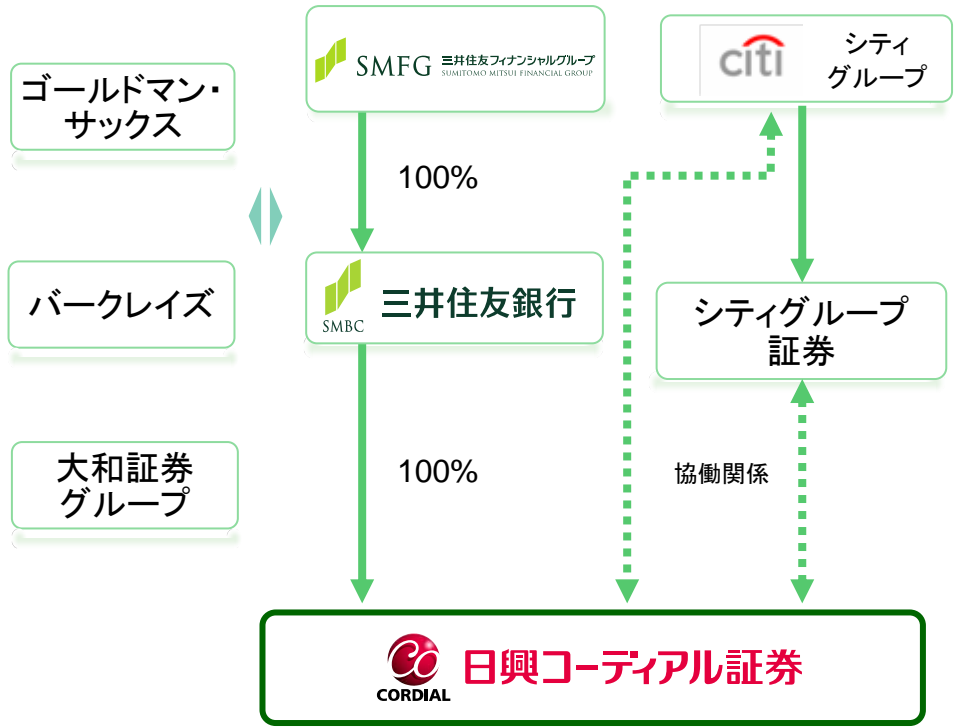
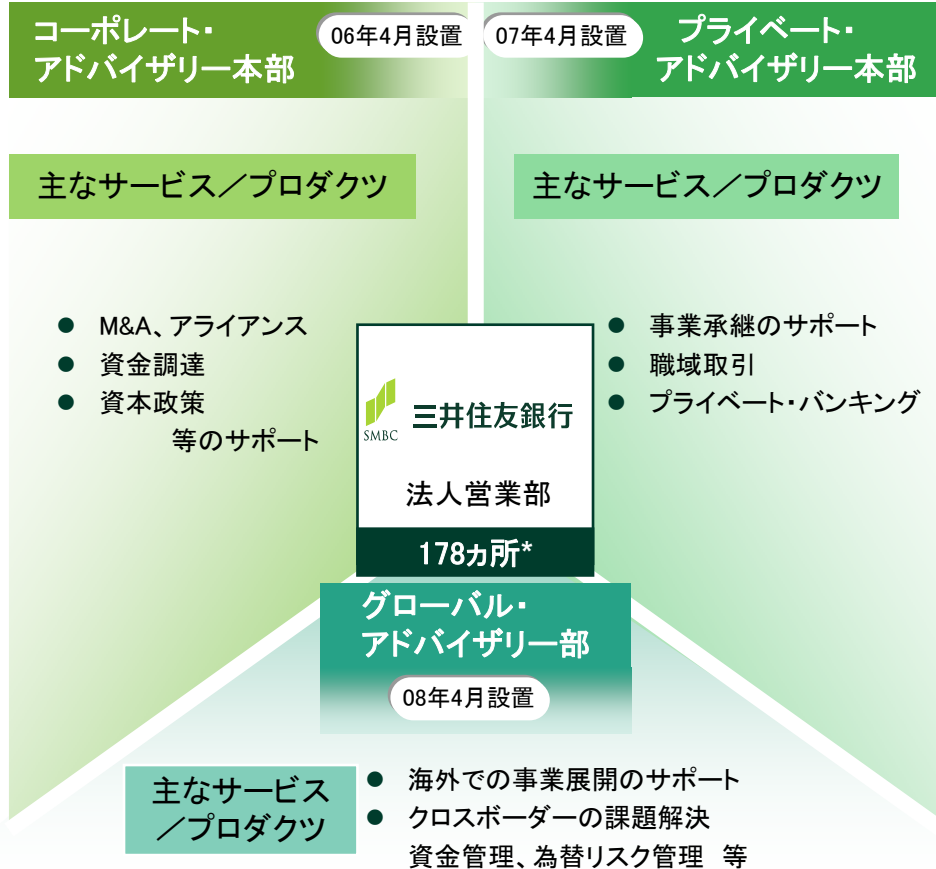
## 2-3. 法人向けソリューション／投資銀行ビジネス

個人・法人・海外といった事業領域にまたがる分野を結びつける3つの専門組織を通じ、お客さまの多様な経営課題に的確に応える質の高いソリューションの提供に、積極的に取り組んでいます。更に日興コーディアル証券を加えて、グローバル企業から中堅中小企業まで、幅広いお客さまのニーズに、銀・証の垣根を越えた質の高いサービスを提供してまいります。

### ソリューション提供体制 (SMBC)

参考

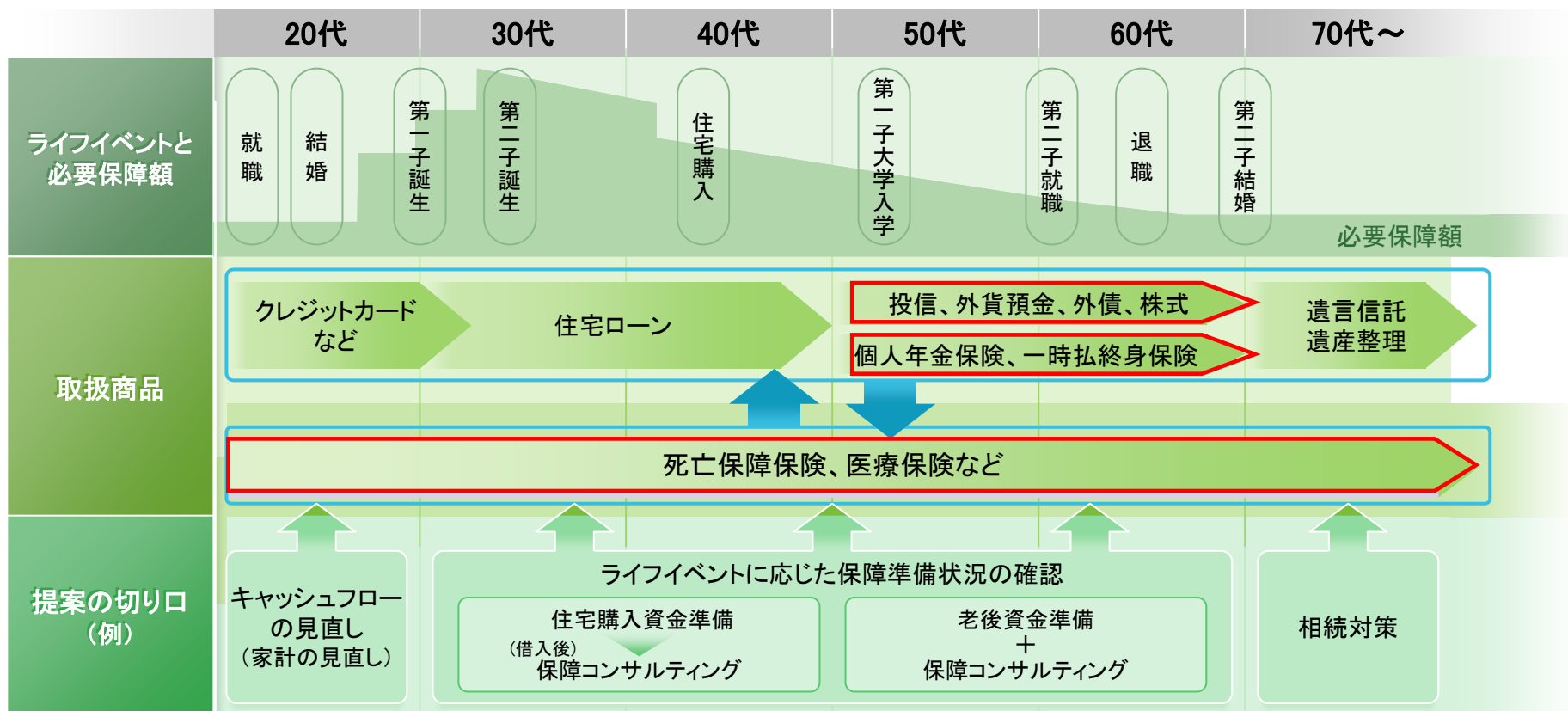
### ホールセール証券ビジネスの新体制



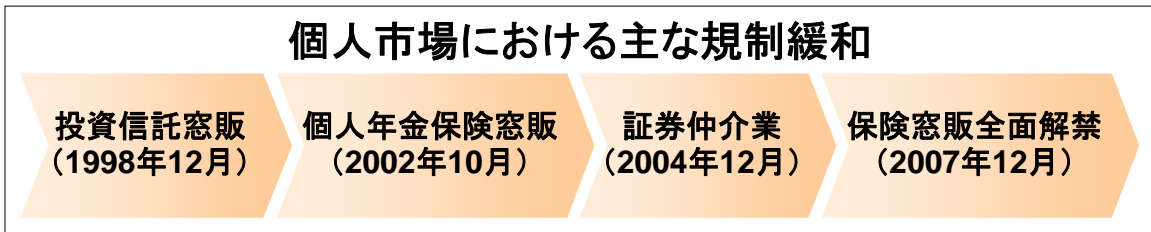
銀証融合のビジネスモデルを追求

## 2-4. 個人向け金融コンサルティング

顧客ニーズに応じた的確な商品提案、お客さまへのきめ細かなフォローの継続等を通じ、相場環境に左右されにくい「トータルコンサルティング」ビジネスの構築に取り組んでいます。商品ラインアップは、規制緩和、日興コーディアル証券の100%子会社化等により、大幅に拡充されています。



家計の金融資産合計  
1,441兆円  
(2009年6月)  
現預金比率55.2%



### 100%子会社化

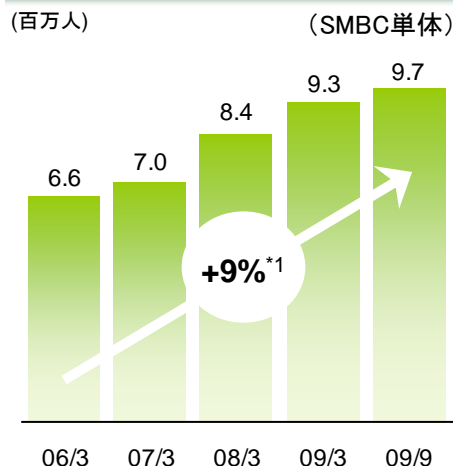


**日興コーディアル証券**

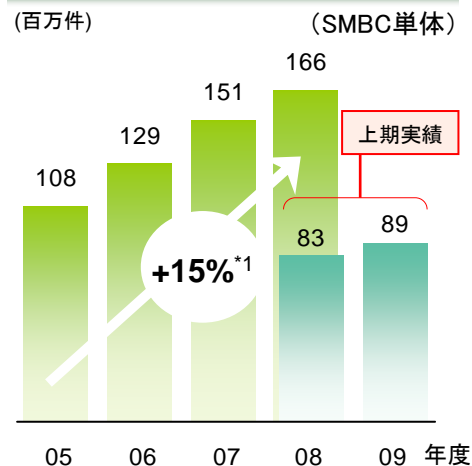
## 2-5. 支払・決済・コンシューマーファイナンス (1) 決済関連ビジネス及び安定的な預金基盤

決済関連ビジネスの継続的な強化を通じて、安定的な調達基盤を確保しています。

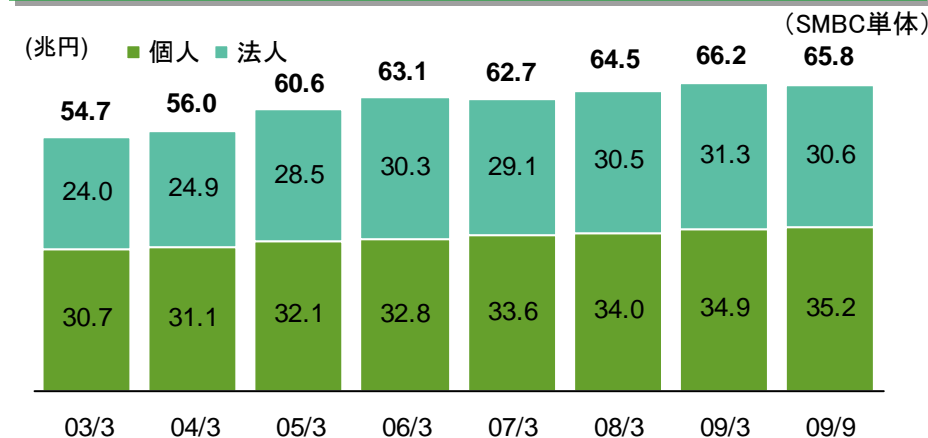
### SMBCダイレクト契約者数



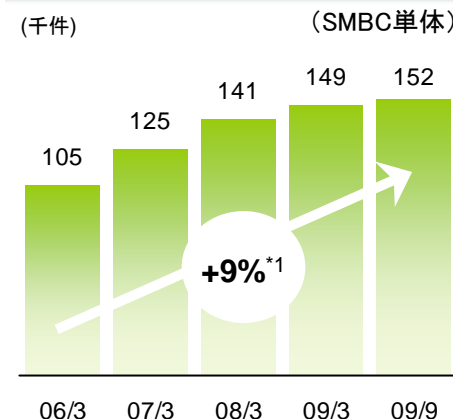
### インターネット取引件数



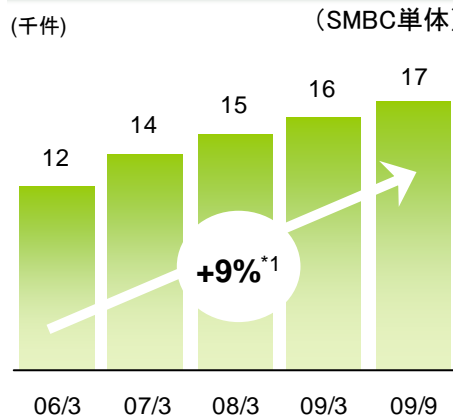
### 国内預金



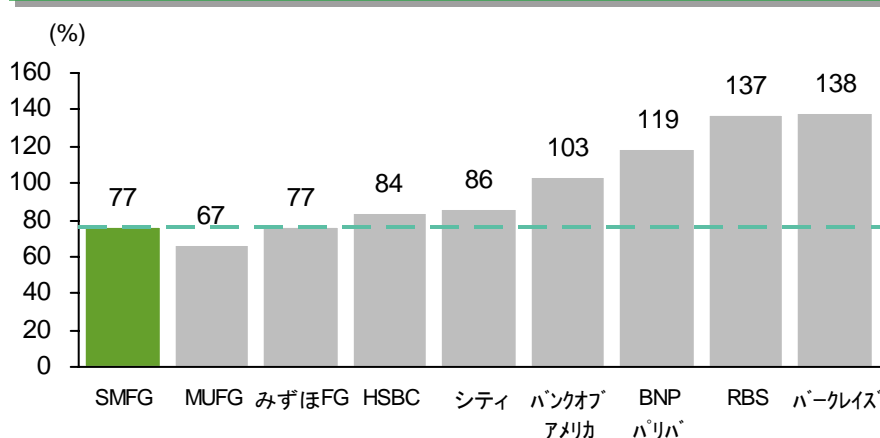
### パソコンバンクWeb21契約数



### Global e-Tradeサービス契約数



### 預貸率\*2

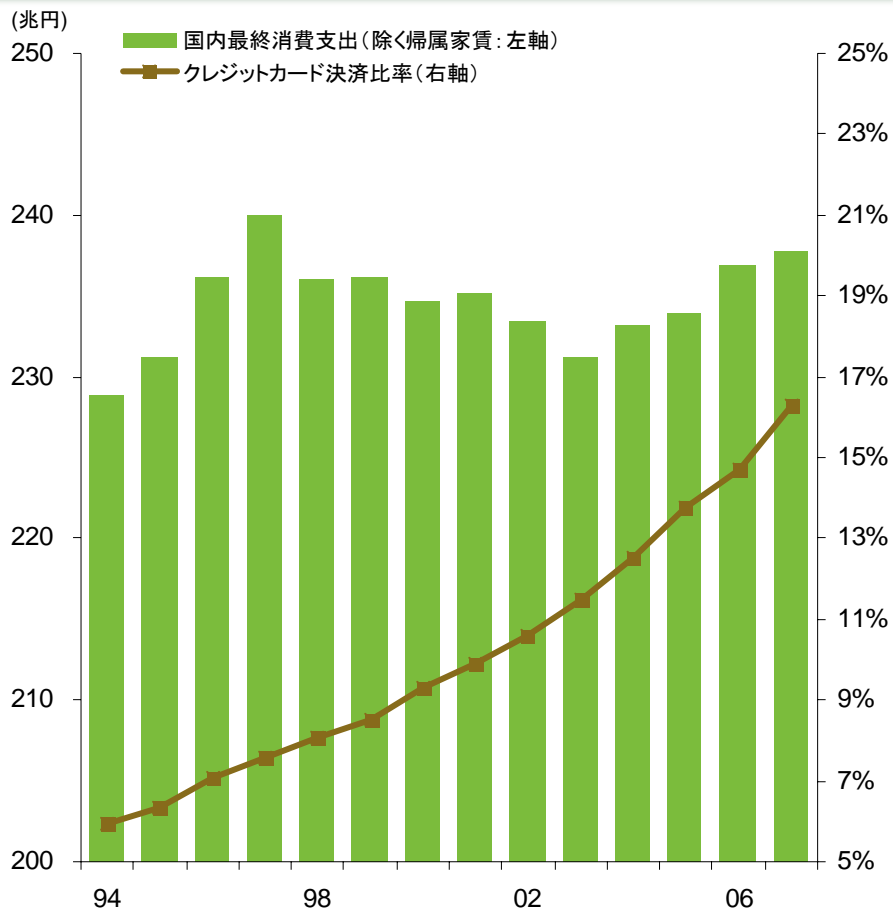


\*1 年平均成長率。インターネット取引件数は08年度までの年平均成長率  
\*2 連結ベース。各社の公表資料に基づく。SMFG、MUFG、みずほFGは09年9月末現在、  
シティ、バンクオブアメリカ及びRBSは09年3月末現在、それ以外は08年12月末現在。

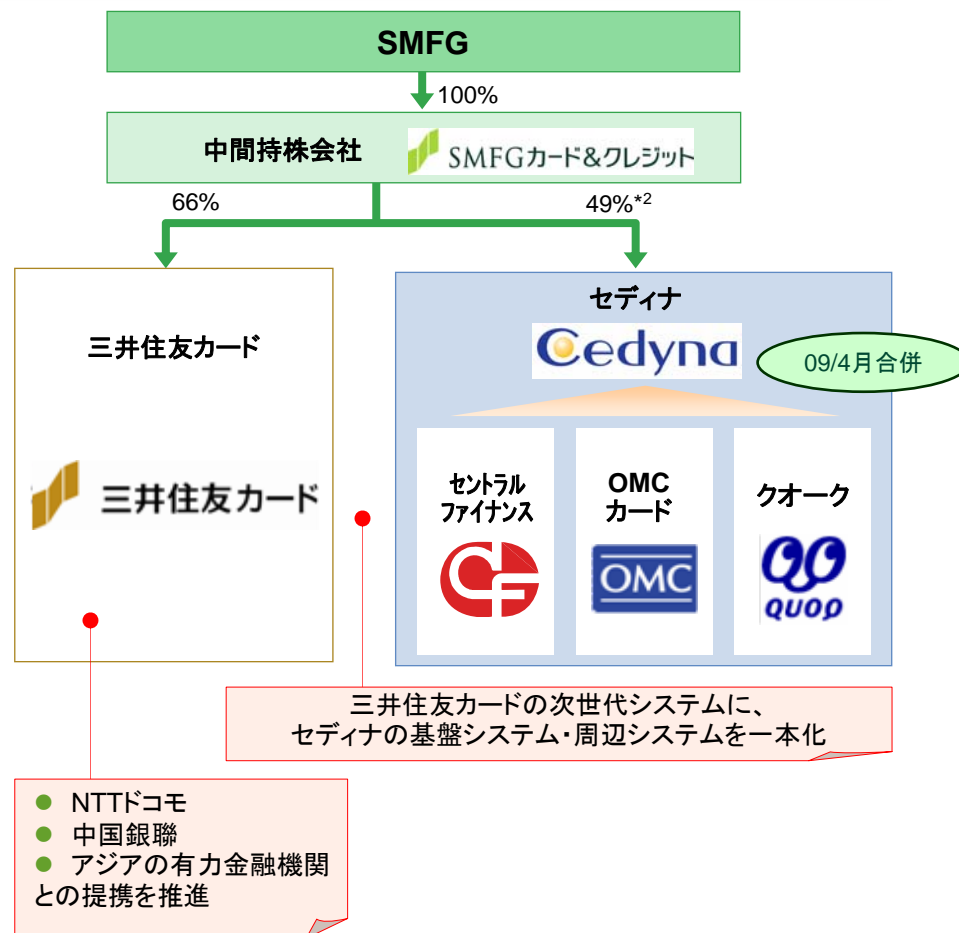
## 2-5. 支払・決済・コンシューマーファイナンス (2) クレジットカード事業

三井住友カードとセディナは、両社のシステム一体化に着手したほか、営業面では、プロダクトの相互紹介・提携カードの共同提案、会員向け共同キャンペーンの展開等、シナジーの実現に向け、各種施策を推進しています。

クレジットカード事業の市場規模\*1



クレジットカード事業推進体制



\*1 内閣府「国民経済計算」、日本クレジット産業協会「日本の消費者信用統計(平成21年版)」に基づく。  
クレジットカード決済額は、クレジットカード・ショッピング取扱高。  
\*2 グループ合算での出資比率

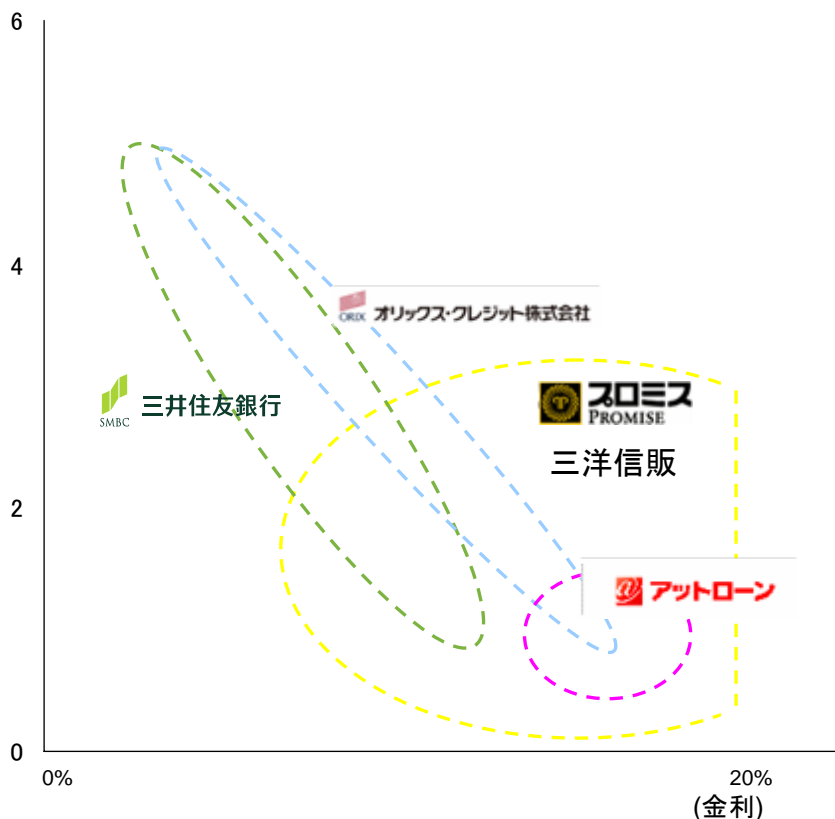
## 2-5. 支払・決済・消費者金融ファイナンス

### (3) 消費者金融ファイナンス事業

消費支出の支払・決済と給与・賞与支給とのタイミングのズレが存在する限り、  
消費者金融・ローンに対する健全な借入ニーズがなくなることはないと考えています。

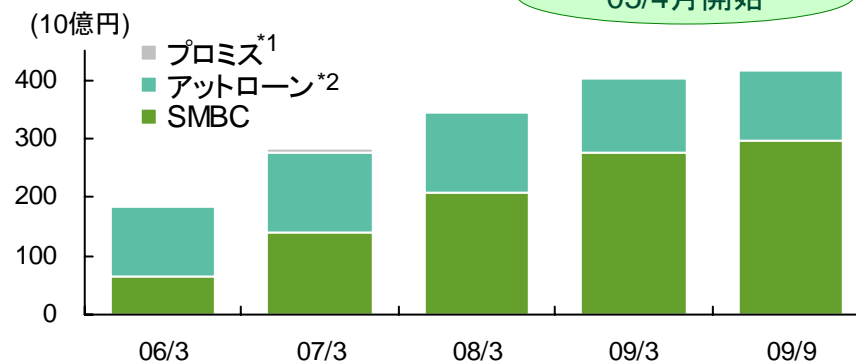
#### SMFGにおける消費者金融ファイナンス 事業の概観(イメージ)

(借入限度額、百万円)

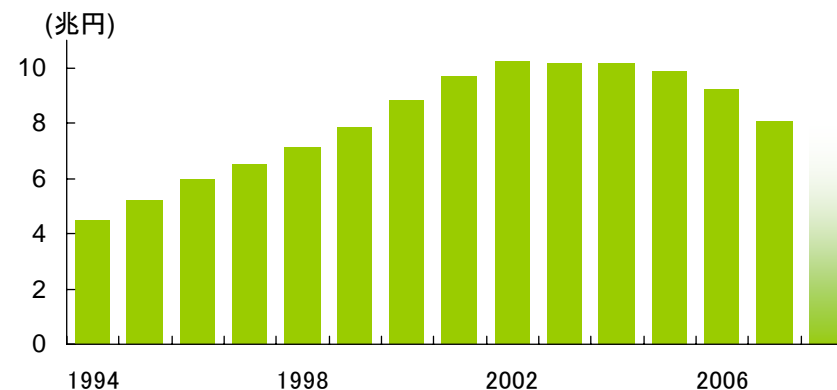


#### プロミスとの協働事業(ローン残高)

05/4月開始



#### 消費者金融会社の供与する 消費者ローン残高\*3

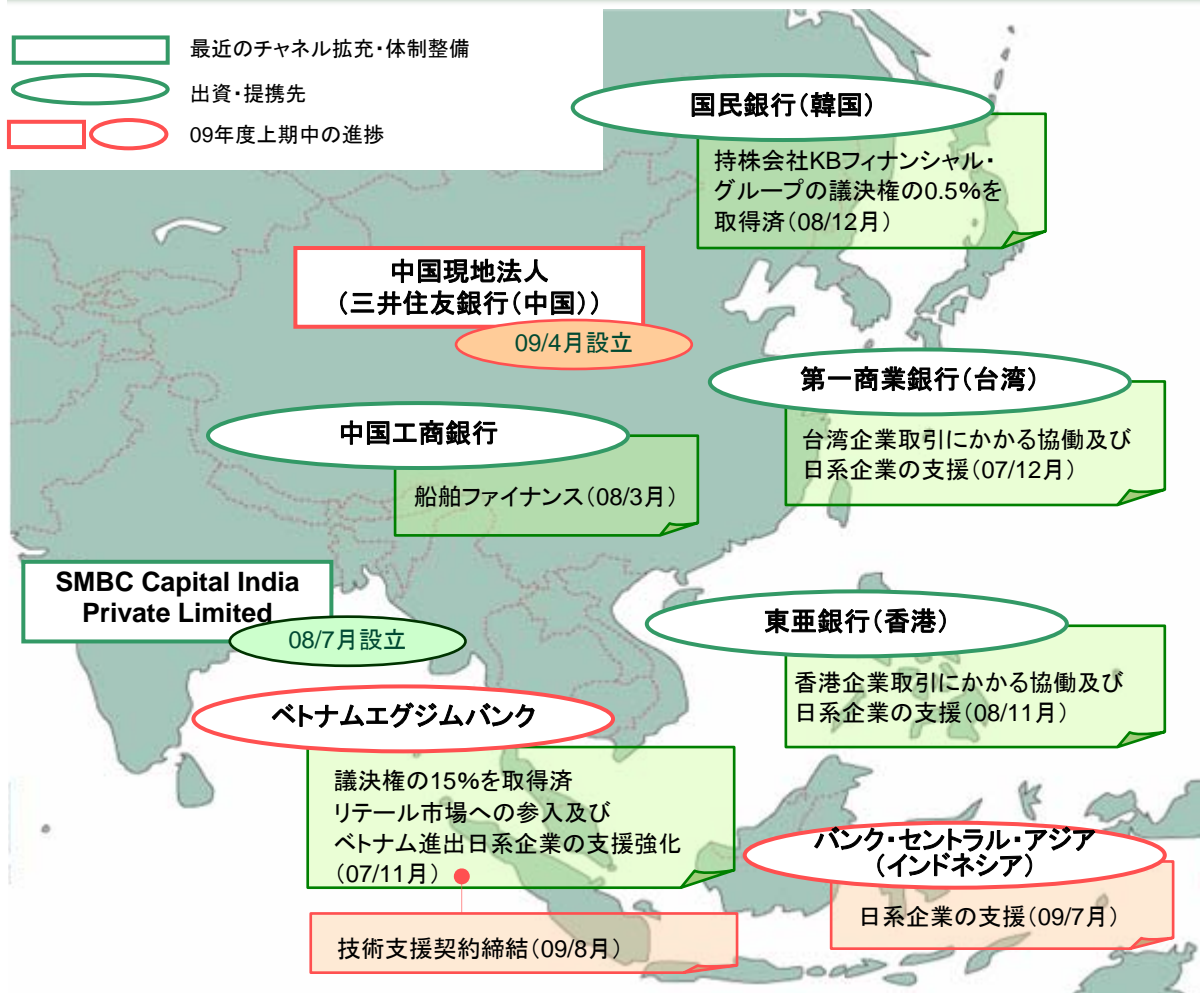




## 2-6. 海外戦略 (1) 提携を通じた成長機会の捕捉

アジア及びグローバルな金融機関との提携を通じ、サービス・ラインアップを強化しています。

### アジア地域におけるチャネル拡充・体制整備／戦略的提携



### グローバル金融機関との連携



#### 出資の概要

08/7月

- バークレイズにSMBCが出資 (普通株式: 約500百万ポンド)

#### 戦略的提携

基本合意: 08/6月

- 新興市場を含むグローバル市場におけるネットワークの補完
  - ▶ 例: 南アフリカにおける業務協働の検討
- 成長事業を強化するべく、バークレイズの専門性・プロダクツを活用
  - ▶ 例: ウェルスマネジメント分野での業務協働の検討
- トレーニー派遣

#### その他

- SMBCにおけるバークレイズ・ユーロ円債の証券仲介による取扱開始

09/9月

### 強みを持つ特定プロダクツ (グローバル)

シンジケーション\*1 プロジェクトファイナンス\*2



## 2-6. 海外戦略 (2) 資金調達業務の強化

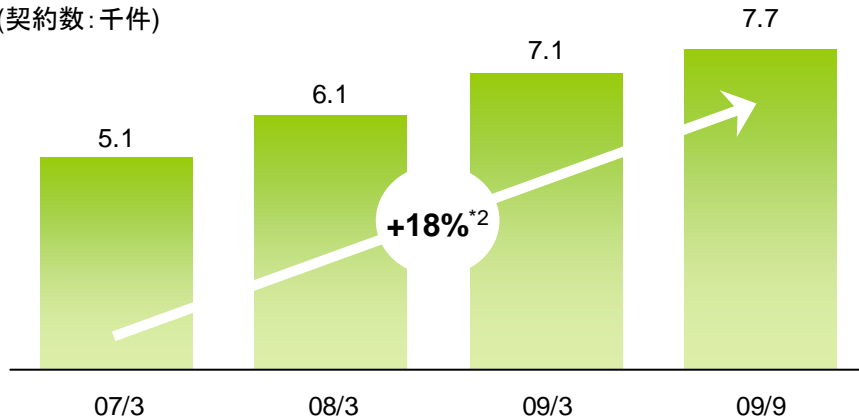
海外においても、商業銀行業務の基本原則に則り、資金調達業務を強化、与信業務とのバランスを追求しています。

### 決済ビジネス(海外)

### 海外預金残高\*4

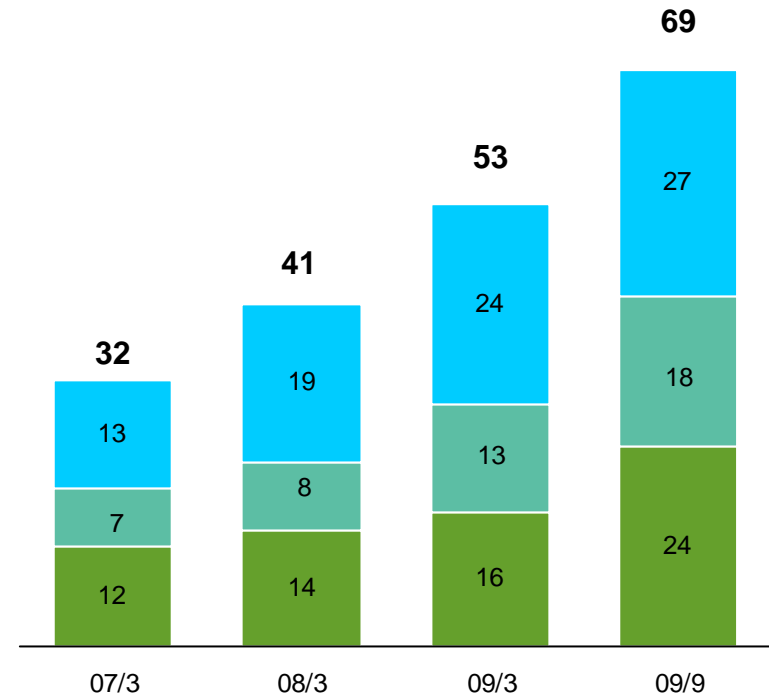
#### 海外拠点におけるエレクトロニック・バンキング\*1

(契約数:千件)



(10億米ドル)

- アジア・大洋州(除く日本)
- EMEA
- 米州



#### 決済サービス顧客アンケート調査 (アジア・パシフィック総合ランキング)\*3

##### キャッシュ・マネジメント・サービス

大企業 中堅企業 中小企業



##### 円決済サービス

金融機関



邦銀中、4年連続1位

\*1 海外拠点における各種エレクトロニック・バンキングサービスの合計 \*2 年平均成長率

\*3 出典:「ASIAMONEY」誌キャッシュ・マネジメント・サービス調査09/8月号

\*4 行内管理ベース。SMBC単体、欧州三井住友銀行、三井住友銀行(中国)の合計

## 3. グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現

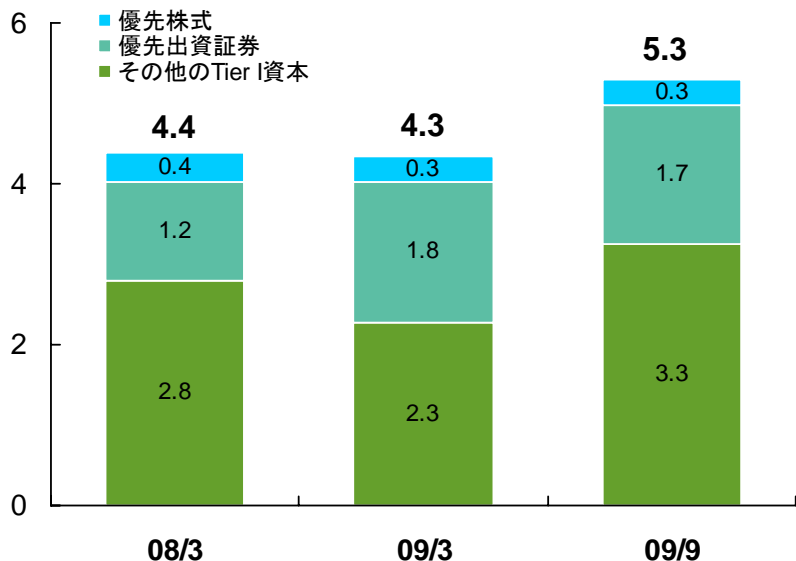
---

# 3-1. 09年度上期の資本政策

発行価額の総額で8,610億円普通株増資を実施したほか、約10年前発行の0.8兆円の優先出資証券のリファイナンスを完了し、資本の質・量の両面における拡充を進めました。

## Tier I資本／Tier I比率\*1

(兆円)



	08/3	09/3	09/9
Tier I比率	6.94%	8.22%	9.55%
ご参考 「コアTier I*2 比率」	4.4%	4.3%	5.9%
リスク アセット (兆円)	63	53	55

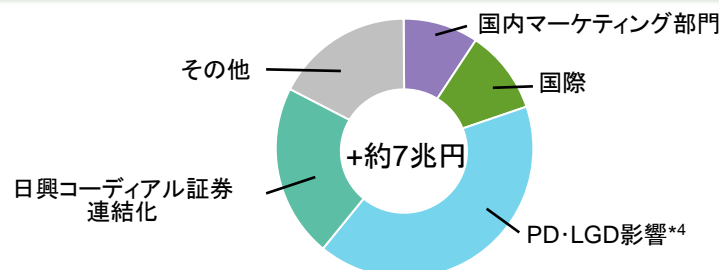
## 08年以降の資本調達・償還実績(Tier I)

08/2月	1,350億円	優先出資証券 (ステップアップなし)	国内マーケット
5月	1,800百万米ドル	優先出資証券 (ステップアップなし)	海外マーケット (アジア・リテール)
リファイナンス済 6月	▲1,800百万米ドル	優先出資証券 (ステップアップあり)	"OPCO"償還 (SB Treasury Company LLC)
7月	1,350百万米ドル / 250百万英ポンド	優先出資証券 (ステップアップあり)	海外マーケット
リファイナンス済 08/12月 - 09/1月	6,989億円	優先出資証券 (ステップアップあり/なし)	国内マーケット
リファイナンス済 1月	▲2,838億円	優先出資証券 (ステップアップなし)	SPCL償還 (Sakura Preferred Capital (Cayman) Limited)
リファイナンス済 6月	▲3,400億円	優先出資証券 (ステップアップなし)	SBES償還 (SB Equity Securities (Cayman), Limited)
6-7月	8,610億円	普通株式	国内及び海外 マーケット
8-9月	3,880億円*3	優先出資証券	国内マーケット

\*3 09年10月15日付払込の追加発行分450億円を含む

参考

## リスクアセット増加要因(09年度期初計画)

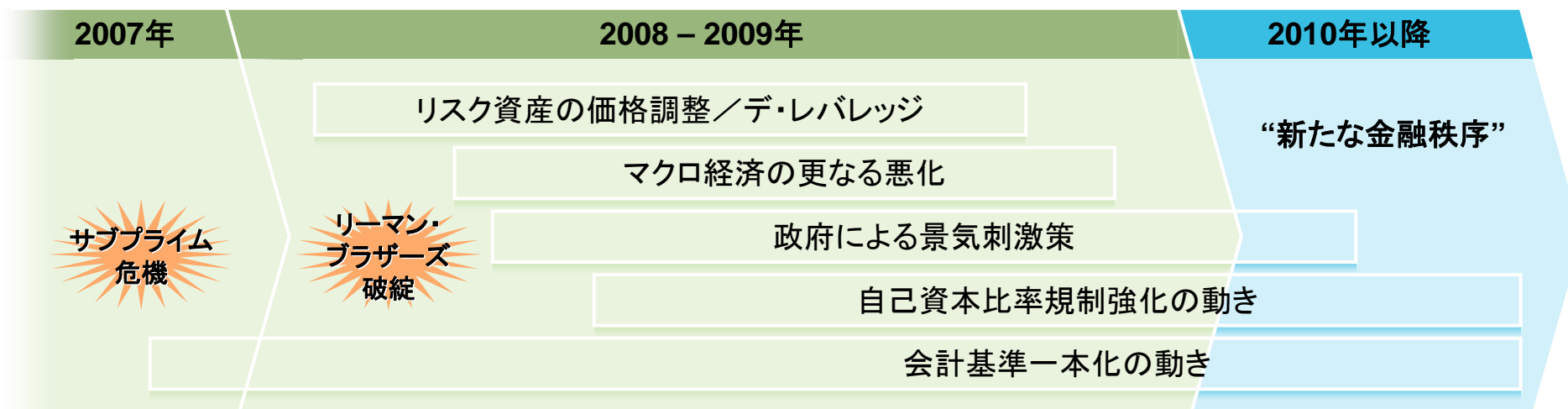


\*1 バーゼルIIベース(信用リスク:08/3月末は基礎的の内部格付手法、09/3月末以降は先進的の内部格付手法、オペレーショナルリスク:先進的の計測手法)  
\*2 定義については国際的な合意がないため、便宜上「コアTier I資本 = Tier I資本 - 優先株式 - 優先出資証券」として試算。

\*4 倒産確率・損失率の変化がリスクアセットに与える影響。  
PD: Probability of Default,  
LGD: Loss Given Default.

## 3-2. 足許の事業環境と自己資本比率規制強化の動き

当社としては、グローバルな金融グループとして、今後決定されるであろう新たな規制下においても競争力を維持し、持続的成長を実現できるよう、適切に対応していく考えです。



### 今回の危機の根源\*

- リスクに対する適切な評価の欠如
- システムの脆弱性
  - ▶ 脆弱な引受基準
  - ▶ 不十分なリスク管理
  - ▶ 複雑で原資産のリスクが不透明な金融商品の増加
  - ▶ 過度のレバレッジ 等

### バーゼル委員会の 上位機関における合意

09/9月

- Tier I資本の主要な部分は、普通株式及び内部留保で構成
- 補完的指標としてレバレッジ比率を導入
- 景気連動性を抑制するような、最低水準を上回る資本バッファの枠組みを導入

等に合意

### ピッツバーグ・サミット首脳声明

09/9月

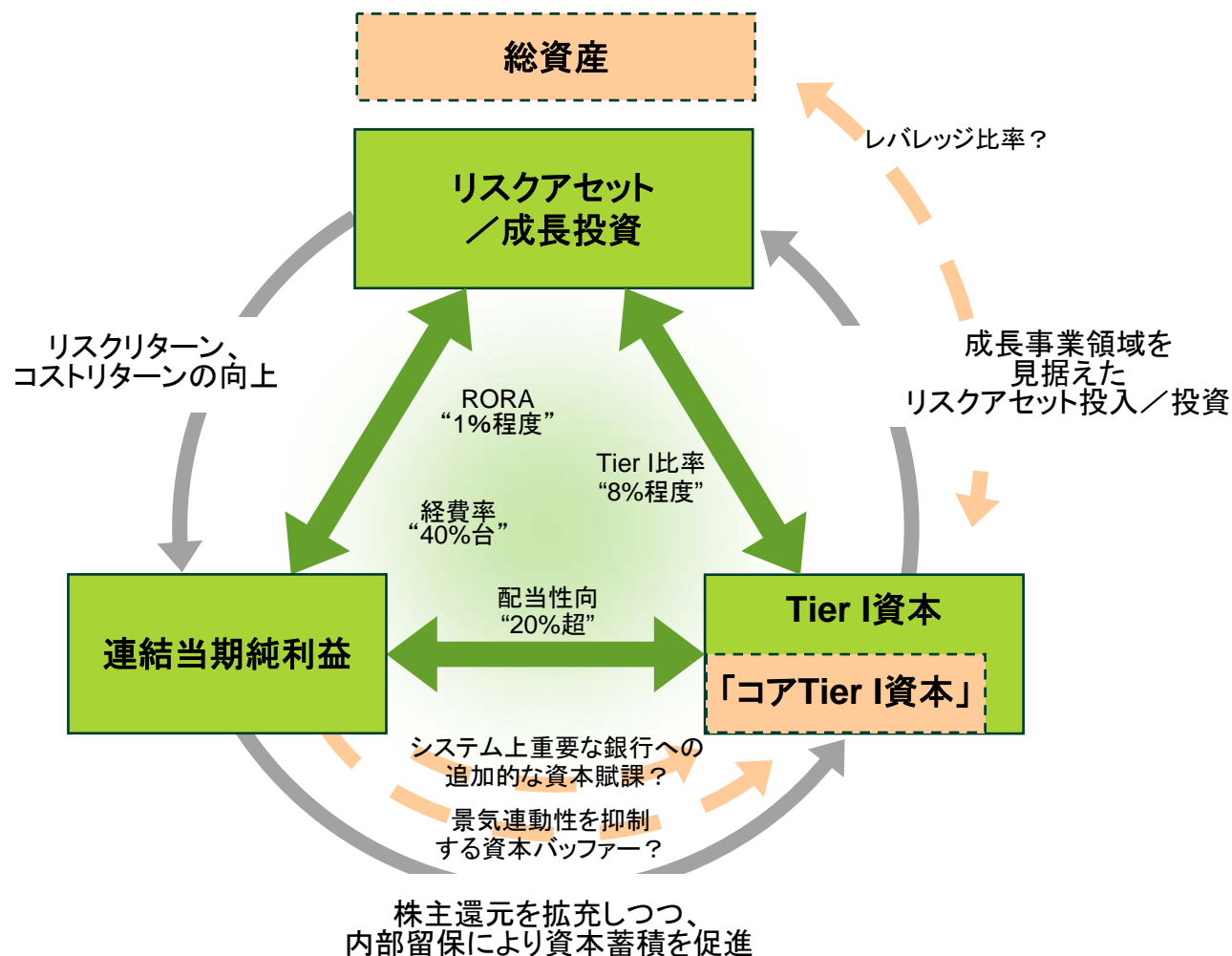
- 国際的に合意されたルールを2010年末までに策定
- 2012年末を目標に、金融情勢が改善し景気回復が確実になった時点で段階的に実施

\* 出典：「金融市場・世界経済サミット宣言」（08年11月15日、G20）

# 終わりに

## - 持続的成長に向けた経営管理の考え方 -

収益・資本・リスクアセット／成長投資のバランスのよい成長サイクルの実現を通じて、  
当社の企業価値を持続的に向上してまいります。



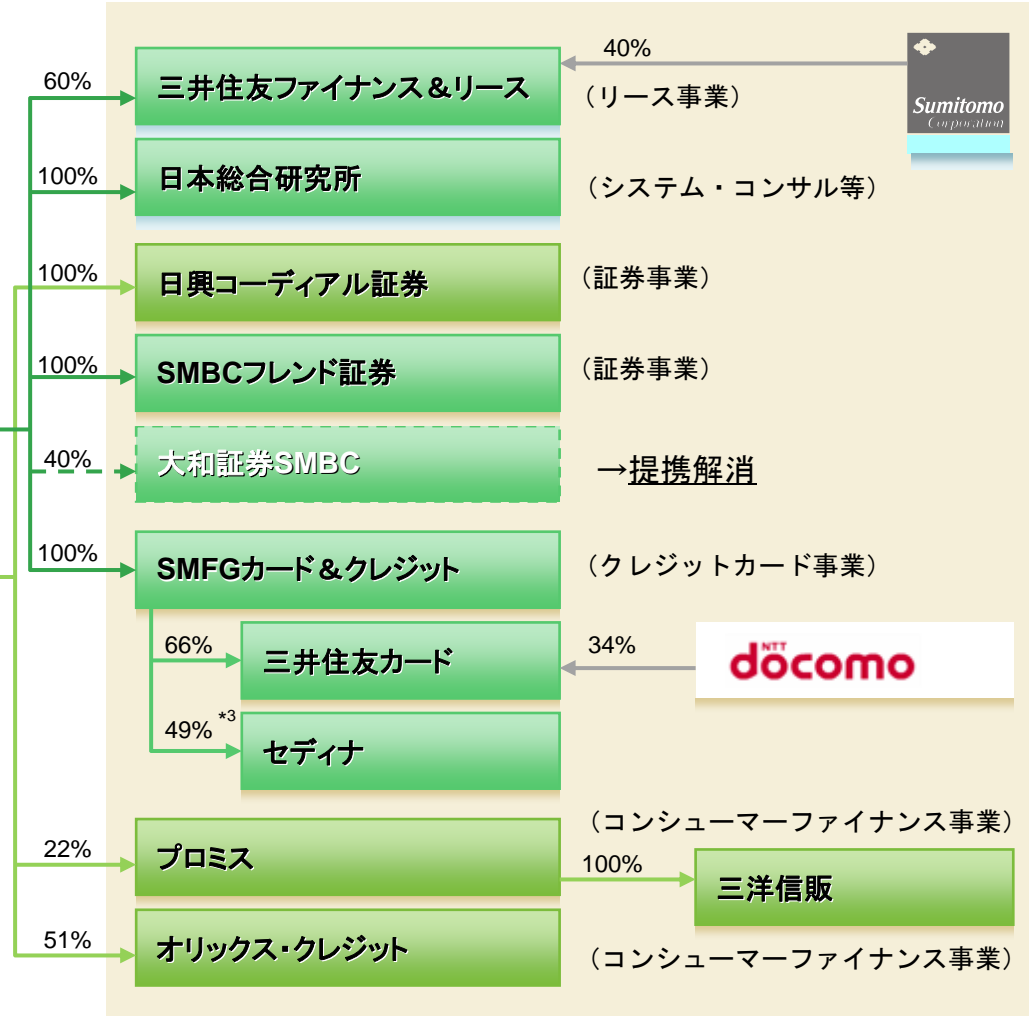
# (参考) SMFGのグループストラクチャー\*1



三井住友フィナンシャルグループ		
連結総資産	118兆円	3位 <sup>*2</sup>
連結Tier I比率	9.55%	
時価総額	3.2兆円	2位 <sup>*2</sup>



三井住友銀行	
邦銀メガバンクの一角	
総資産	105兆円
預金	69兆円
貸出金	59兆円
個人口座数	約26百万口座
法人貸出先数	約12.7万社



\*1 各種計数は09年9月末現在。  
 \*2 邦銀における順位  
 \*3 グループ合算での出資比率(09年11月13日現在)



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。